

第4回福岡県地域おこし研修・交流会

HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

「住学協同」による地域おこし

出会いと交流のプラットフォーム

と

持ちつ持たれつ

(Give and Take)

2006年2月25日

近畿大学 産業理工学部

菊 川 清

「住学協同」と「産学協同」

「住学協同」は認知されているか？ (06/02/13)

検索エンジン GoogleTM で認知度を見る

「住学協同」: 115件

「産学協同」: 604,000件

「住学協働」: 4件

「産学協働」: 130,000件

「住学共同」: 13件

「産学共同」: 1,640,000件

「住学連携」: 0件

「産学連携」: 2,380,000件

住学: 計 132件

産学: 計 4,754,000件

「産学協同(共同、連携)」は広く認知されている。

「住学協同」は認知されていない。なぜか？

筑豊以外の「住学協同」

カリフォルニア大学デービス校(UCDavis)

学生主体の「住学協同」(学生自治組織ASUCDによる)

- ・学内の物品販売、食堂経営はもとより、デービス市と協力して、市の社会基盤整備事業に積極的に参加(年間予算～12億円)
- ・Unitransバスの運行をASUCDが全面的に受託(運転手も学生)
- ・Junior Campus Tour(小・中学生対象の学内開放) 学生主体で運営

(東工大クロニクルNo.369 香取慶一)

東京都国立市

国立市に在住する「学生」と「住民」の「住学協働」

- ・市議から市長への質問に見えるだけで、具体的な事例は不明

大学を核とした地域おこし:シリコンバレー

枝川公一「シリコンヴァレー物語」(中公新書)

1891年:スタンフォード大学開校 1925年:F.ターマン教授就任

- ・東部と西部に大きな格差(有力企業・政府資金など)
- ・優秀な学生を地元に残すため起業を奨める

1939年:ヒューレット・パッカード社 設立

(1940-1945: F.ターマン教授 ハーバード大無線研究所 所長)

1950年代:「産学協同」のシステム化(F.ターマン工学部長就任)

- ・スタンフォードリサーチパーク(1953):大学の知的資源の活用

1955年:ショックレー研究所 → 1957年フェアチャイルドセミコンダクタ →

1968年:インテル社 1971年:シリコンバレー命名

大学がシリコンバレー形成に決定的な役割
「産」と「学」 *Give and Take* の関係を貫く

シリコンバレーが示したものの

ハイテク産業の立地条件は「ヒト」

「シリコンバレーでは 人のつながりで ほとんどのことが
決まる」 (枝川公一)

「様々な人の交流だけが新たな知を創造し、価値を生む」
(東工大監事 西村吉雄)

インテル社の誕生:新しいことへ挑戦するために!

「みんなのための自分、自分のためのみんなという、個と全体の
絶妙のバランスの上に、インテル社は構築された」 (枝川公一)

シリコンバレーを象徴する三つの言葉

“Give and Take” (持ちつ持たれつ)

“One for All, All for One” (みんなのための自分、自分のためのみんな)

“Only The Paranoid Survive” (シリコンバレーでは偏執狂だけが生き残れる)

立地条件は「ヒト」:「大学の出番」

～1980年

欧米:「大学革命」大学の役割の歴史的転換

- ・大学に、教育と研究に加え、
「新産業」や「雇用の創出」を期待

日本:地方の時代の「核」としての大学への期待

- ・その土地に知的興奮がなければ
人材は集まらないし残らない

細川護熙(熊本県知事, 当時) 『日経産業新聞』1983年11月4日

- ・本当の意味での地域格差をつくっていくのは、
これからは大学

山本敬三郎(静岡県知事, 当時) 『日本経済新聞』1983年10月31日

大学のもう一つの顔: 非営利活動

西村吉雄 東工大監事

市場経済: 勝ち組がますます勝つ → 独占の形成

→ 開発投資や新規参入意欲が衰退 = 独占の弊害

→ 非営利組織としての **大学への期待**

- 非営利活動は、利潤や投資回収とは違う価値によって動き得る
仲間からの尊敬が報酬
- しかし非営利活動も金銭的サポートを必要とする
営利と非営利の連携が問題解決に有効
- リナックス: 非営利活動が、市場経済側の起業家精神を刺激し、
新産業を開きつつある

産学連携とは市場経済と非営利活動の連携

「産学連携」を推進する大学の2つの機能

1) 出会いと交流のプラットフォームとしての大学

西村吉雄 東工大監事

- 様々な人の交流だけが新たな知を創造し、価値を生む
- 人が入ってきて、出会い、交流し、出て行く
これを本来の機能としている組織は大学だけ
- 研究とは、交流から知を創造すること
- 教育とは、知を付加価値として身につけて出て行くこと

2) 非営利組織としての大学

- 市場経済と非営利活動の連携として、「産学連携」が理想的な *Give and Take* の関係となり得る。

なぜ「住学」:「産学」=1:36,000なのか？

1) 出会いと交流のプラットフォームとしての大学
「産」・「住」共に有効な大学の機能

2) 非営利組織としての大学
「産学連携」には強力な推進力
「住学連携」→「住」も「学」も非営利活動

目先のことだけ考えると、
「住」と「学」は*Give and Take* でない！

「住学協同」:なぜ筑豊で生まれたのか？

栄光の石炭時代から
「石炭六法」の補助金行政の時代へ

3つの主産業・3つの損

「鉱害復旧・生活保護・就労事業」

「大声を出さにや損・もらわにや損・人の後ろから手をださにや損」

いくら金を注いでもオアシスのできない「筑豊砂漠」

筑豊砂漠に流れる地下水脈:「隣人への深い思いやり」

[隣人への深い思いやりなくして 筑豊という地域は牽引できない]

← 筑豊のキーワード → [*One for All, All for One*] 10

隣人への深い思いやりがつくる地下水脈

この地下水脈が、筑豊砂漠の各地にオアシスをつくり、「あすの筑豊を考える三十人委員会」が「交流と連帯」により市町村の枠にとどまっていた多数のオアシスを合流させ、「筑豊砂漠」に水を引き、蘇ろうという「熱気」を生みました。

皆で井戸を掘ろう、砂漠に水を引こう、田畑を耕そう、種を蒔こう、自らの知恵と汗で収穫を得よう。

さあ、機は熟した。

ふるさとの自然、歴史、文化、風土、特産品、人、物、心のすべてを生かして蘇ろう。

人間らしく生きよう。

(「筑豊ゼミ」第1期事務局長 加地 豊)

「住学協同」構想の誕生

「筑豊砂漠」に水を引く活動のなかから
地域の頭脳としての大学の役割の重要性と、
“私学”の可能性が問い直され、

大学と地域が連携する
「住学協同」の構想が生まれました

“私学”の可能性:

新しいこと、先例の無いことへの
“私学”の柔らかさ ⇔ “国公立”の硬さ

筑豊住民へ図書館(蔵書の館外貸出)など、キャンパス解放

大学と地域の共催によるゼミナール

- 地域づくりにかかわる各団体・リーダーの
- ・交流・意見交換・知識の充実・情報の収集・・・
- ・住みよい筑豊を築いていくため、

筑豊ゼミ開講をという「要望書」を近畿大学へ提出

近畿大学教授会と発起人会との会議で、徹底して「自主自立」のための運営方法が論じられ、ここに全国に例のない大学と地域の共催による

筑豊ムラおこし、地域づくりゼミナール 誕生

40人の募集に100人を超える応募

ゼミナール応募者の特徴

- ・筑豊全域から
- ・地域おこしにかかわる個人や団体
- ・地域おこしに熱心な企業経営者
- ・筑豊25市町村のかなりの自治体の職員

行政サービスの現場にいる職員と住民が、
黙黙を捨て諤諤を取る(第1期修了式本郷学部長挨拶)
→ 期せずして「住・官・学」協同が生まれる

開かれた大学、自立する筑豊の実験

筑豊ゼミ

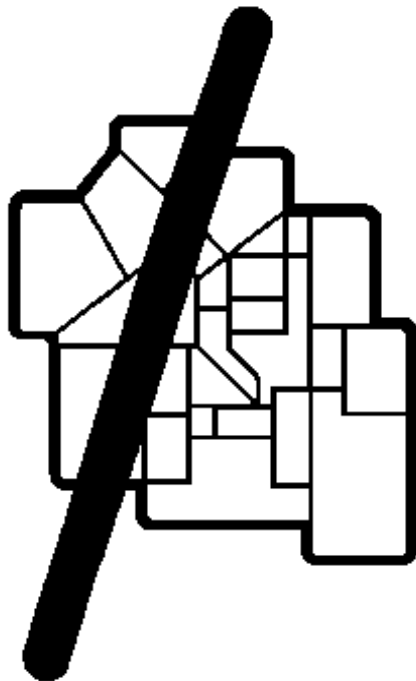
(筑豊ムラおこし・地域づくりゼミナール)

昭和63(1988)年

4月22日

第1期 開講式

本郷英士 学部長 開講式 挨拶
“地域と大学「渾沌」からの出発”



筑豊ゼミのシンボルマーク

手さぐりの出発 バ・ホ・キの情熱

100人のゼミ生が生んだ分科会

3分野、5分科会

1. ムラおこし

A. 産業おこしを考える

B. イベントを考える

2. 地域づくりを支える役割

C. 住民自治を考える

3. 地域づくり

D. 歴史と風土を考える

E. くらしと教育を考える

バ・ホ・キ: バカ・ホラフキ・キチガイ



分科会風景



ゼミ主催の公開講座

「筑豊ゼミ」誕生のころ

- '88 4.22: 第1期開講式“地域と大学-「渾沌」からの出発” 本郷英士
7. 8: 特別講義「地域交通体系と筑豊」
“JR九州の改革とこれから” JR九州社長 石井幸孝
“第3セクター出発進行” 田川市助役 湯前 保
11.25: 特別講義「今、筑豊に求められるもの」
福岡県知事 奥田八二
12.2-3: 人類動態学会西日本地方会で 記念講演
“生活の流れは遠賀川とともに一筑豊の歴史と風土”
筑豊ゼミ生(若菜小教諭) 中島忠雄
- '89 2.25: 日本計画行政学会九州支部第9回大会
“筑豊における地域おこし” 筑豊ゼミ事務局長 加地 豊
3.29: 「筑豊地域づくりセンター」研究プロジェクトチーム発足
4.22: 第2期「筑豊ゼミ」開講式
5.24: 第1期「筑豊ゼミ」川崎教室開講

「筑豊ゼミ」の熱気はどこから？

- 1) 筑豊は崩壊し渾沌の地域状態(環境)
- 2) 地域崩壊を救おうとする必死の想いの住民(原動力)
- 3) 「あすの筑豊を考える三十人委員会」→交流と連帯(触媒)
- 4) 筑豊ゼミ生の高い能力
「情報受信」への準備ができているとともに、
「情報発信」できる活動経験が豊富
→ *Give and Take* の関係がうまく回る
- 5) 出会いと交流のプラットフォームとしての大学(場)
- 6) 本郷英士 近畿大学九州工学部長(当時)(人を得て完結)

住学協同機構「筑豊地域づくりセンター」

筑豊ゼミの学習活動の中から

→ 恒常的な運営基盤への要望

平成元年3月:プロジェクトチーム結成

現実を踏まえながらもより夢を
ふくらませた形での議論

平成2年5月:

新井先生開発の'SIMPLE'による

「シナリオ」完成

→ 設立準備会

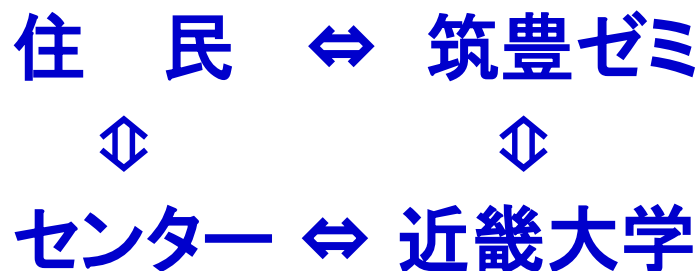
平成4年10月16日

設立総会



筑豊地域づくりセンター事務所開き

地域文化創造のための「住学協同機構」



地域文化創造のための
→ 調査/研究・人づくり

新井 潔 教授 (現千葉工大) (アドバイザー) **日本計画行政学会賞受賞**
“シナリオにもとづくデルファイ型調査手法「SIMPLE」の確立”

活動事例:

1997年3月 ('91, '94): 筑豊の将来を考えるための
「市長選挙ゲーミング・シュミレーション」

1998年3月: 筑豊の明日を考える
「筑豊分権フォーラム」

2000年3月: 筑豊における環境に配慮した地域づくり
「ゴミに対する取り組み」シンポジウム

評価された活動

ふるさとづくり'97

「住学協同機構」地域づくりセンター

開かれた大学、自立する筑豊の実験

〈集団の部〉

内閣官房長官賞 「ふるさとづくり賞」受賞

.....
ふるさとづくり'96

I Love 遠賀川実行委員会 「ふるさとづくり奨励賞」受賞

ふるさとづくり'97

何が評価されたか？ 一つの総括(加地 豊)

- 1) イデオロギー論争を超えたこと。
- 2) 地域間を超えたこと。(25市町村)
- 3) 男女間を超えたこと。
- 4) 物や金でない心の豊かさを求めたこと。
- 5) 緑や自然を愛し、平和を願うこと。
- 6) 地方の時代の **自立自助** を
追究し続ける精神の高いこと。

「筑豊ゼミ」最近の活動

「みんなの筑豊大発見」 子供の目線で見えた筑豊



「地域の歴史と文化の再発見」分科会

第1期から続く伝統ある分科会

見て学ぶ、足で学ぶ、「筑豊の宝さがし」分科会

- 1)長崎街道:飯塚宿、内野宿
- 2)筑豊炭田の近代化遺産
- 3)嘉飯山地区の祭りと行事
- 4)筑豊弁で語る筑豊の民話



内野宿 お茶屋の復元模型



飯塚宿の復元模型

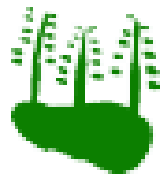
「まちづくりと合併」分科会

まちづくり分科会から発展、第13期には、

「市町村合併の手引き」作成

中心メンバーが

筑豊市町村合併推進市民連絡会議



マタセロイヤ

を結成しました。

17期まで、継続的にまちづくりと合併について学習

「安心と安全のまちづくり」分科会

18期「まちづくりと合併分科会」が発展

子どもの安全どう守る

PTA対象にアンケート

朝の登校時間に比べて
放課後の活動が手薄な実情が
浮き彫りに

「地域社会と連携して取り組み強化を訴える」

「筑豊の環境を考える」分科会

大学のアドバイザーが最も良く機能している分科会

- ・定期採水調査: 筑豊地域20箇所を選び、
10年以上にわたり、継続的に、
水環境(BOD, COD, TOC, pH, EC)調査
- ・福岡県環境教育学会への参加(発表)
- ・環境関連施設の見学(RDFゴミ発電施設等)
- ・環境アンケートの実施

ゼミ生の中心メンバー:「飯塚市環境市民会議」で活躍

「筑豊の交通を考える」分科会

鉄道、バスともに「路線存続」が厳しい地域

鉄道: JR九州, 筑豊電気鉄道、平成筑豊鉄道

バス: JRバス、西鉄バス

第16期: 現状と課題を明確にする

第17期: 事例研究: 平成筑豊鉄道

「存続・再生」させるために何をなすべきか?

注)第1期 特別講義「地域交通体系と筑豊」

- ・石井幸孝 JR九州社長(当時)
- ・湯前 保 田川市助役(当時)

「筑豊ゼミ」1988年～2006年：18年の総括

出会いと交流のプラットフォームとして

筑豊全域から

人が集まり、出会い、交流し、出て行き、
各地で“新しい地域おこし”を育む

地域おこしの核となるヒトを育てた

曲がり角にきた「筑豊ゼミ」

ゼミ生の高齢化：若い新しい人が入らない

役割が終わったのでは？ では、新たな役割とは？

「住学協同機構」筑豊地域づくりセンター

「地域文化の創造」という期待に応えていない

・「学」の側からの寄与の希薄さ

社会科学系教員・研究者が手薄(理工系の宿命)

→ 産業理工学部(文理融合型:*Humanity-Oriented*)への改組

→ 社会科学系・人文系教員の強化(緒についたばかり)

・時代に合わせた目標設定ができていない

最近の試み

1) 筑豊地域研究会

2) 筑豊ゼミの支援

3) 講演会の開催

・壱岐日々新聞社主 ・福岡県地域政策課長 ・遠賀信用金庫理事長

4) 「住学協同公開講座」への協力

筑豊地域研究会：地域文化創造

目的：筑豊を客観的に見る力、
筑豊を書き、語る力を付ける
現地観察・証言収集・資料収集により

「筑豊学」につながる研究

「地域づくり」に大切な3P(Planning, Presentation, Performance)
「それぞれの地域論」を構築しながら、3Pをマスターする

業績：①近畿大産業理工学部主催公開講座へ講師派遣
②学部誌「かやのもり」に2号から研究論文を出稿
③新しい地域を発掘：「青年団村芝居の台本」発見は
新聞にも大きく掲載された。

「住学協同公開講座」への協力

「人と川の民俗誌」

牛島英俊氏 (直方歳時館館長)

「筑豊の女性・世界の女性」

宮嶋玲子氏 (ガールスカウト日本連盟福岡県支部長)

「交流型地域開発のこころみ -「むら」というテーマパーク-」

道 廣幸氏 (赤村助役・源じいの森副理事長)

「伝統と現代の創造的統一 -アイガモ農法の未来-」

古野隆雄氏 (全国合鴨水稻会世話人代表)

「住民自治とNPO活動を考える」

塩川秀敏氏 (NPO法人ヒューマンネット大地の翼事務局長)

「住学協同」の原点：

「開かれた大学、自立する筑豊の実験」

「誰」に開いているのか？

[産] に開かれた大学は多い

[産] ⇔ [学] : *Give and Take*

[産]から[ニーズと資金] : [学]から[シーズと知恵]

[住] に開かれた大学は少ない

「住」に開いた窓の典型は「公開講座」

「学」 ⇒ 「住」 : *Give and Take*

「住」と「学」 *Give and Take* は可能か？

- 1)大学の実力を上げる: 相手が「産」であれ、「住」であれ
- ・「社会に開くこと」で「大学の實力」が明らかになる。
実力が無い大学は、誰にも開けない
 - ・「大学を開くこと」で「大学の實力を上げる」ことができる
「産学協同」とともに、
「住学協同」がもたらす大きな意味(*Take*)

忘れてはいけないこと

「開く」と「迎合する」とは全く違う！

「独立」した「非営利組織」としての大学が、
チェック機能を失えば、その存在価値はない。

「住」と「学」 *Give and Take* は可能か？

2) 大学は典型的な立地産業

大学氷河時代、立地条件を高めることが不可欠

情報は 情報を発信するところに 集まる
技術は 技術を発信するところに 集まる
文化は 文化を発信するところに 集まる

「元気な学生」は「元気なまち」に 集まる

「学生が 愛されているまち」に 集まる

「元気なまち」こそ、大学の「立地条件」

大学がまち(産と住)と協同して「元気なまちづくり」をすれば、
「大学とその学生が 愛されているまち」ができる

大学が生き残る条件

立地する地域が元気

- 住んでいる人が、その地を愛し、自慢している
住んでる人が自慢しない地に学生は来ない
- 知的興奮(=文化の創造と発信)がある
[住学]および「産学」協同が、知的興奮を生み、
本当の意味での地域格差をつくる
- 地域経済の健全な発展がある
補助金に頼らない地域経済 「自立した筑豊」

→ 「住学協同機構の原点」

奇跡を起こした村の話:新潟県 黒川村(現胎内市)

吉岡 忍 (ちくまプリマー新書)

貧困と豪雪と出稼ぎの村から、スキー場、4つのホテル、そば屋、地ビール工場兼レストラン、フラワーパーク、クアハウス、スポーツ施設、キャンプ場、釣り堀、畜産団地、ハム工場、ヨーグルト工場、味噌工場、肥料工場、ゴルフ場、…**を経営する村へ**

人口:6389('75)→6750('00) (80年代末:過疎地指定取り消し)

伊藤孝二郎 村長 1955年~2003年 12期48年の成果

「高度経済成長という魔物から村を守る。出稼ぎでやっと食っている村では、放っておくと若者はどんどん出てしまう。」(伊藤村長談)

具体的な村(まち)のビジョン → 補助金を「活用」

補助金に合わせたまちづくり → ハコモノ → 破綻

「行政」の役割:まちのビジョンを具体的に語り、議論し、実現する

e-ZUKAトライバレー産学官交流研究会 まちづくりシンポジウム in 飯塚(2006/1/11)

靱井 勝人 日本ユニシス社長 (基調講演)

- ・“このまちをどうするんだ”というビジョンがあるのか？
- ・やっている人達の自立と自主性 → これが全て
- ・投資するに足る魅力的な人たちが集まっているか？
- ・筑豊の特徴を生かしたまちづくり(高齢者が多いことも産業おこしに繋がる)

正田 英樹 ハウインターナショナル社長 (コーディネーター)

シアトル市:全米でも住みやすいまちで有名。なぜか？

「子供達が輝いている」から

輝く子供を育みたくて全米から優秀な人たちが集まり続ける

e-ZUKAトライバレー構想:2004年6月、経済産業大臣賞を受賞(第3回産学官
推進会議:飯塚市、九州工業大学、近畿大学産業理工学部)

「筑豊」の特徴を生かした「元気なまち」

「筑豊」の特徴

- 遠賀川流域:最も早く拓けた稲作文化圏
- 長崎街道・秋月街道:海外文化の往き来した道
- 近代化を支えたエネルギー産業の中心地
- 大学(九工大・福岡県立大・近畿大)の集積
- 適切な「人口規模」と「産業構成」
- 「高齢者」(>65)も「若者」(18~24)も多い
- 地域おこしに取り組む住民の自立する精神が高い

高齢者と若者が協奏・共創する社会の先進地として、
「オンリーワンのまちづくり」に大きな可能性

「住学協同」のこれから

地域おこしの、新たな「目標」

知的興奮のある、自立した筑豊

- ・地域の特徴を生かした「産業おこし」
- ・合併後の具体的な地域ビジョンづくり
- ・自分の力で立ち、自慢できるまちづくり

自立する筑豊

- ・子供たちが輝いているまちづくり

子育てするなら筑豊で！

現実には、「職」は筑豊でも、「住」は福岡 や 宗像

「住学協同」のこれから

地域おこしの、新たな「かたち」

ビジョンを具体的に語り、議論する

- ・投資したくなる「産業おこし」を考える
- ・提言したら、実現のために汗をかく
 - ・お願いではなく、自分で実現する覚悟で提言する
- ・先に中身を考え、後からハコはついてくる
 - ・「活用」した税金は返すことを前提に考える
- ・小学校から大学まで「開かれた学校」を考える
 - ・「信頼」から始まる、住民と学校の良い関係

会社(産)は社会(住)を欺いたときに転落する

日本経済新聞2006/2/17朝刊

雪印乳業の崩壊: 食中毒事件・牛肉偽装

姉齒建築士・木村建設・ヒューザーの崩壊: 耐震偽装

(会社が)どん底から這い上がるとき、
社会との接点が足がかりになる

日本ミルクコミュニティ: 酪農家の一言から生まれた
「牛乳が好きな人のメグミルク」

→ 酪農家と消費者(住)との架け橋

長谷工コーポレーション: マンションを売って

終わりにしない(住民への)責任感

ご清聴有難うございました！

「社会に開かれた大学」とは ほとんどの大学で「産学連携」を意味する

いくつかの大学で、単に地域社会との交流の推進だけではない「**地域に開かれた大学**」を目指している

○地域社会と共同して新しい知的資産を創り出し、新しい文化を創造する地域共同体の中心として大学が機能することを目指す。(広島大学)

○地域社会の様々な分野でコアとしての機能を果たす。(小樽商科大)

「地域に開かれた大学」

静岡文化芸術大学

「浜松まちづくり101人会」が、市民1,000人に新大学の

“地域に開かれた大学とはどんな大学か？”

アンケートの上位3項目は(850人回答)

- 1)公開講座、聴講など住民が生涯学習の場として利用できる。
- 2)キャンパス内が解放されており、施設利用や散策などが自由にできる。
- 3)住民と学生や教授陣と交流できるイベントが開催される。

第4回福岡県地域おこし研修・交流会:「住学協同」による地域おこし

HOTな大学 近畿大学 産業理工学部 ◆Kinki University, School of Humanity-Oriented Science & Engineering

筑豊のムラおこし、地域づくり団体・グループ(1993年1月現在 162)

- 1.鞍手町(4):六ヶ岳を考える会 長谷地区風地保存会 鞍手音楽愛好会 みんなで鞍手を考える会
- 2.宮田町(5):上有木村づくり協議会 宮田国際音楽祭実行委員会 かつぱ村 宮田町手をつなぐ親の会
- 3.若宮町(11):日吉農産加工組合 日吉林業研究グループ 村おこしヤング若宮 若宮町村おこし推進会議 他
- 4.直方市(12):まつりくらじ実行委員会 ムラおこし実行委員会 遠賀川炎の祭り実行委員会 どんこ庵グループ 直方クリエイティブ21 直方郷土研究会 龍王峡運営協議会 直方舞台芸術協会 直鞍風あげ大会実行委員会 他
- 5.小竹町(1):小竹子供研究会 7.方城町(1):方城町ムラおこし会 8.香春町(1):香春町郷土研究会
- 6.赤池町(6):赤池町「蒼い会」 赤池町童謡祭り実行委員会 上野焼青年部 赤池町まちづくり株式会社 他
- 9.田川市(20):田川市福祉祭り実行委員会 町おこしを考える会 古代史研究会(ヒミコの会) 田川文化連盟 筑豊ヤマの会 伊加利人形浄瑠璃保存会 田川の活性化を考える会 筑豊制作クラブ どんこ祭り実行委員会 他
- 10.赤村(7):赤村商工会議所青年部 友歩会 Do You 農 一塾会 京二川漁協 泥マチック・in・赤デミー 他
- 11.添田町(8):マタタビドリンク開発チーム 添田町農業青年部 英彦山音楽祭実行委員会 添田町の文化を高める会
- 12.金田町(1):金田町生活活性化推進委員会 14.大任町(1):大任町商工会青年部 19.碓井町(1):筑豊天文同好会
- 13.糸田町(9):田川市合唱団 町おこしを考える会 宇宙船「地球号」 糸田町の今日とあすをつなぐ会 他
- 15.川崎町(5):豊前川崎商議所青年部 人づくり町づくり推進委員会 川崎地区活性化対策委員会 他
- 16.山田市(6):大法白馬山観光協会 三陶グループ 山田市おこし大学 山田商工会議所青年部 他
- 17.嘉穂町(10):宮小路果樹組合 長谷山を愛する会 九州りんご村まつり実行委員会 フルーツ共和国 足白青年団
- 18.稲築町(0) (以下嘉穂町) 遠賀川に鮭を呼び戻す会 小野谷14人会 21嘉穂Construct School 愛町会
- 20.筑穂町(4):茜染め研究会 筑穂町青年団 国際フェスティバル実行委員会 茜の里どんぐり村 嘉飯山郷土研究会
- 21.桂川町(7):桂川町の明日を創る会 人と駅と古墳を考える会 筑豊有機農業研究会 強制連行を考える会 他
- 22.穂波町(6):ぶりこの会 穂波をよくする会 兵士・庶民の戦争資料館 穂波町水仙まつり実行委員会 他
- 23.飯塚市(32):明るい町づくりの会 フォーラム15 あすの筑豊を考える30人委員会 鎮西青年会 六地藏 筑豊ムラおこし地域づくりゼミナール 愛らんどMyらんど筑豊実行委員会 遠賀川の水を守る会 飯塚吹奏楽団 飯塚25クラブ 飯塚を考える女の会 赤とんぼ共和国 I LOVE 遠賀川実行委員会 筑豊炭鉱遺跡研究会 九州車いすテニス実行委員会 新人音楽コンクールを育てる会 ふるさとの夢を育て語る会 他
- 24.庄内町(2):福祉の里づくり推進会議 ふくおか庄内児童合唱団 25.潁田町(2):下勢田獅子舞保存会 もぐら広場

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第1期 開講式 「渾沌からの出発」

- ・血の気の多い筑豊の若い人々のたつての奨め
- ・主役は住民、大学は何も仕組まない
- ・公開講座や産官学の協力とは異質な「住学協同」

第1期 修了式 「諤諤(がくがく)」(湯武以諤諤而昌)

- ・正しいと信ずることを憚らずに主張する
- ・黙黙を捨て諤諤を取る

第2期 開講式 「湜湜(しょくしょく)」(涇以渭濁、湜湜其沚)

- ・水が清く底の小石まで見えること
- ・まだまだ、筑豊の未来は不透明だが、
再生への努力が湜湜たる沚を生みつつある

第2期 修了式 「風立ちぬ、いざ生きめやも」

- ・筑豊に風が吹き始めた、さあ人間らしく生きよう

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第3期 開講式 「飄風(ひょうふう)」

- ・各地につむじ風を起こす
- ・一定の方向に吹く一色の風では筑豊再生はできない

第3期 修了式 「愚公移山」

- ・行動に移すとは、長期的な展望に立って、焦らず、慌てず、目に見えるほどの効果がなくても失望せず、一步一步前進する

第4期 開講式 「跬歩(きほ)」(不積跬歩、無以至千里)

- ・半歩だけ進むことの繰り返しが、千里に至る
- ・「ば・ほ・き」を合言葉に、半歩進もう (ば・ほ・き=ばか・ほらふき・きちがい)

第4期 修了式 「日々新」(湯之盤銘曰、苟日新、日々新)

- ・跬歩を積むなかで生まれるけだるい日常性に埋没することなく、日々新たな気分でありたい

第5期 開講式 「菁莪(せいが)」(菁菁者莪)

- ・人を育てる・集まって、学習し、討論し、情報を交換し、この地域の再生の中核となる人材を育てることを楽しみにする。 → **これが、筑豊ゼミ**

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第1期 開講式 「渾沌からの出発」

- ・血の気の多い筑豊の若い人々のたつての奨め
- ・主役は住民、大学は何も仕組まない
- ・公開講座や産官学の協力とは異質な「住学協同」

第1期 修了式 「諤諤(がくがく)」(湯武以諤諤而昌)

- ・正しいと信ずることを憚らずに主張する
- ・黙黙を捨て諤諤を取る

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第2期 開講式 「湜湜(しょくしょく)」(涇以渭濁、湜湜其沚)

- ・水が清く底の小石まで見えること
- ・まだまだ、筑豊の未来は不透明だが、再生への努力が湜湜たる沚を生みつつある

第2期 修了式 「風立ちぬ、いざ生きめやも」

- ・筑豊に風が吹き始めた、さあ人間らしく生きよう

第3期 開講式 「飄風(ひょうふう)」

- ・各地につむじ風を起こす
- ・一定の方向に吹く一色の風では筑豊再生はできない

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第3期 修了式 「愚公移山」

- ・行動に移すとは、長期的な展望に立って、焦らず、慌てず、目に見えるほどの効果がなくても失望せず、一步一步前進する

第4期 開講式 「跬歩(きほ)」(不積跬歩、無以至千里)

- ・半歩だけ進むことの繰り返しが、千里に至る
- ・「ば・ほ・き」を合言葉に、半歩進もう

ば・ほ・き＝ばか・ほらふき・きちがい

開講式・修了式の挨拶に見る「筑豊ゼミ」

第4期 修了式 「日々新」(湯之盤銘曰、苟日新、日々新)

- ・跣歩を積むなかで生まれるけだるい日常性に埋没することなく、日々新たな気分でありたい

第5期 開講式 「菁莪(せいが)」(菁菁者莪)

- ・人を育てる
- ・集まって、学習し、討論し、情報を交換し、この地域の再生の中核となる人材を育てることを楽しみにする。
- ・これが、筑豊ゼミ

(本郷英士学部長、筑豊ゼミにおける最後の挨拶) ⁵²

子育てするなら筑豊で

開かれた学校:小学校から大学まで「住学協同」

- ・住民(保護者)と学校(教員)とが信頼しあう
- ・「先進国型教育」への脱皮

これなくして、「ヒト」を立地条件とする地域おこしはできない

- ・地図にない、新たな目的地を創る「先進国型教育」

→ 人のやらないことに挑戦する

人と違うことを評価する: それが先進国!

- ・先進国への地図を読むための「発展途上国型教育」

→ 答えのある問題を、一番速く解く

横並び意識と受験戦争: それが発展途上国³!

ゆとり教育を考える

「ゆとりがある」とはということ？

買い物に行って、千円しかないときと、百万円持ってるときでは、
“どちらがゆとりがあるでしょう？”

ゆとり教育とは、

目先のことに、「すぐに役に立つ」教育ではなく、
長い人生の中で遭遇する「予期せぬ」出来事に、
ゆとりを持って対処できる「基礎的な力」をつける教育

- ・生きていくために必要な人間力を鍛える訓練が勉強
- ・自分の頭で考える力をつける訓練が勉強

勉強せずにすごした人間に、ゆとりがあるはずがない！

本当のゆとり教育を

他人と違うことで、世界をリード → 「先進国型教育」

アイデアの数だけ、他人と違うことを考える人の
数だけ、一番がいる:みんな“勝ち組”

→ これが、ゆとり教育

答のある問題の点数で評価 → 「発展途上国型教育」

一番は一人だけ:他はみんな“負け組み”

“*Winner takes All*” (Bill Gates)

東大合格者に田舎の公立校が復権

週間朝日2005/11/11

都会の受験生の学力低下

都会では、中高一貫校受験のため、小学生から塾通い

→ 基本的な生活習慣の崩壊

基本的な生活習慣：百マス計算の“蔭山英男先生”

「早寝」「早起き」「朝ごはん」

「読み」「書き」「計算」の徹底反復と「体験学習」

子供時代の基本的な生活習慣の崩壊

・遊ばず塾へ・夜遅くまで勉強・ゲーム漬け・テレビ漬け

小学時代のゆがみは修正が難しい → 田舎の出番

OECD学習到達度調査(PISA)

フィンランドと韓国:

4部門ともトップグループ

韓国:

受験戦争が過熱している国

フィンランド:

標準授業時間がOECD加盟国で最短
テストで学校や生徒をランク付けする
仕組みの無い国

OECD学習到達度調査(PISA)

発展途上国:

短期間で、先進国に追いつくために
横並び意識と受験戦争が非常に有効

先進国:

世界をリードする国になるには、
他人と違うことを評価する
価値観の転換が必要

OECD学習到達度調査(PISA)

読解力で14位と順位を下げた:

学力低下を嘆いて、国語・数学(算数)・理科などの授業時間を増やし、「総合的な学習の時間」を減らす教育課程の見直しが提言されています。

しかし、本当に必要なのは、

他人と違うことで、世界をリードするために
「考える力をどうつけるか！」

「地域」とともに生きる努力

住学連携:「住学協同機構」地域づくりセンターが
ふるさとづくり'97において
「内閣官房長官賞 ふるさとづくり賞」受賞

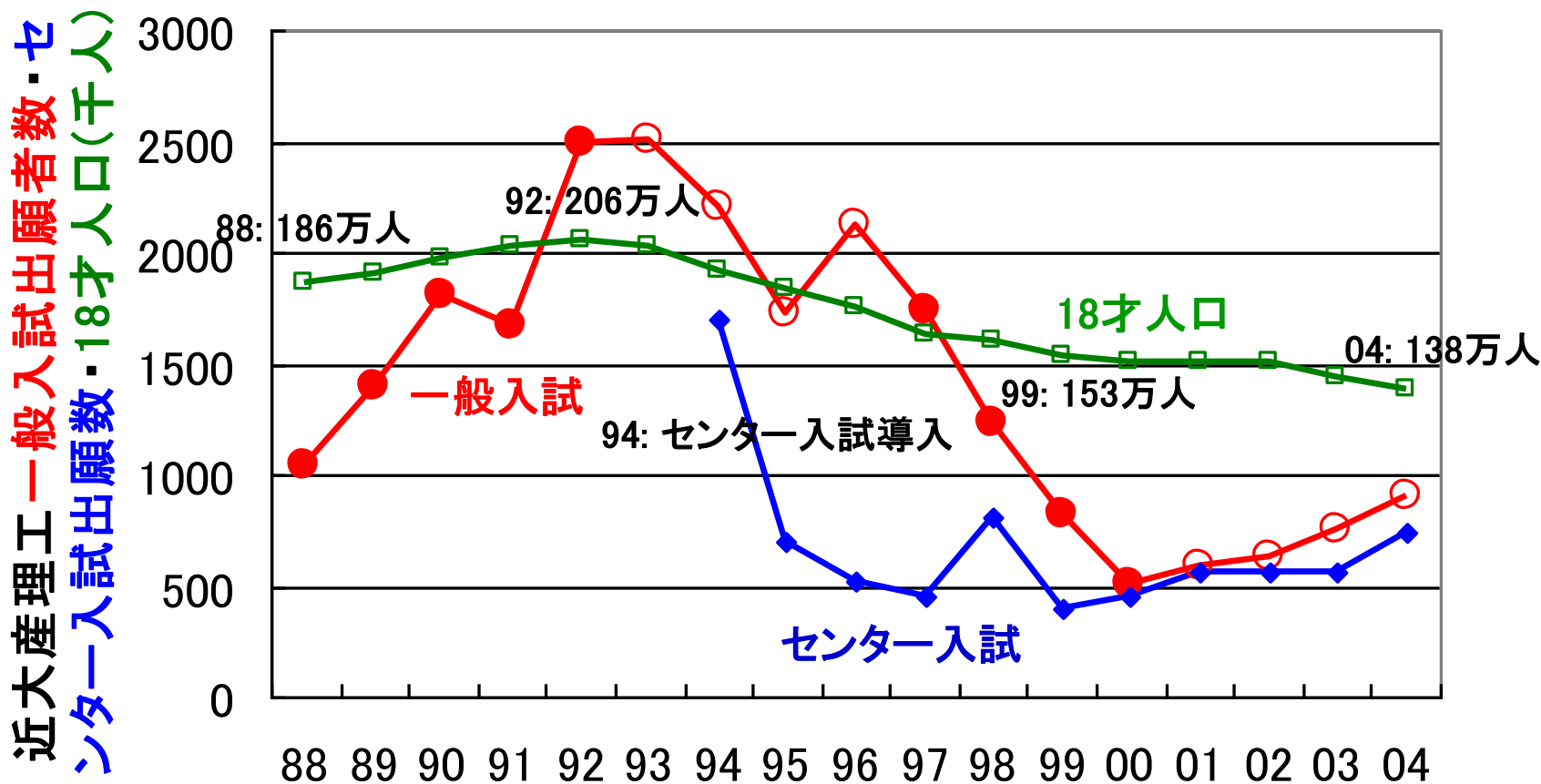
産学官連携:近大産業理工学部・飯塚市・九工大が
第3回産学官連携推進会議(2004/6/19)において
「経済産業大臣賞」受賞
官主導の[e-ZUKA TRY VALLEY]構想が評価される

これらの活動は、**立地条件を高めるための**

必要条件ではあっても十分条件ではない

筑豊ゼミ開講後の入試出願者数の推移

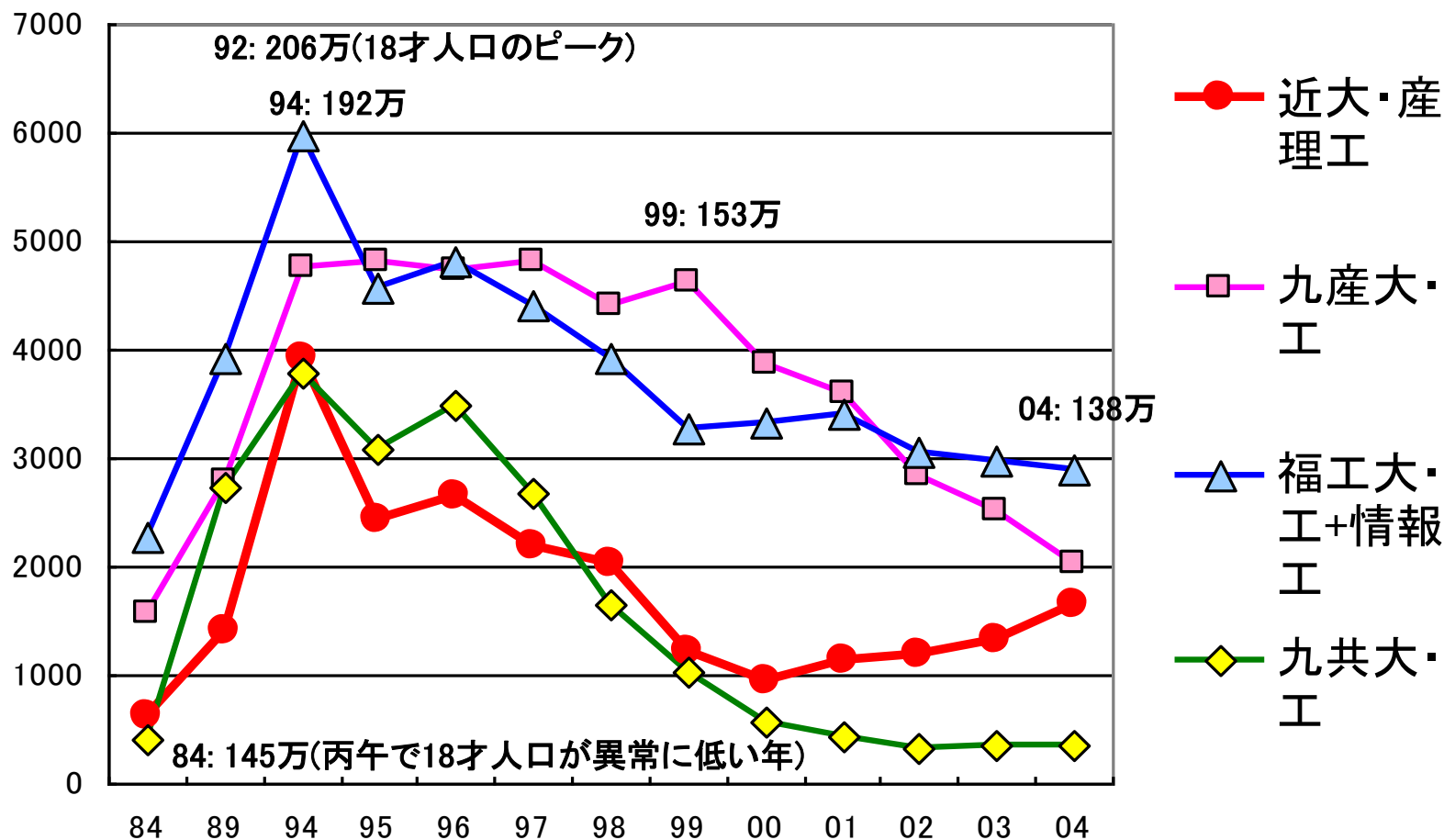
近大産理工の一般入学試験出願者数と18才人口



1988年筑豊ゼミ開講

筑豊ゼミ開講後の入試出願者数の推移

近大産業理工学部 と 近隣大学工学部 の 出願者数(一般+センター)



1988年筑豊ゼミ開講 [88: 18才人口 186万]